



令和7年度 学校だより

つなぐ

翠輝学園 つくば市立
みどりの南小学校
第30号
発行日 R7.10.3

令和7年度 学校教育に関するアンケート（保護者）の結果より

今回は、前回の児童の結果に引き続き、保護者の結果についてご報告いたします。なお、自由記述については後程、お伝えしてまいります。

A(とてもそう思う)・B(すこしそう思う)・C(あまりそう思わない)・D(まったくそう思わない)					
	No	質 問 内 容	A+B	R6.12月比	R6.12月
確かな学力	1	学校は「分かる・できる」授業に努めている。	93.5%	6.6%	86.9%
	2	お子さんは、授業中、友達とペアやグループで学び合うことが楽しいと言っている。	89.5%	4.2%	85.3%
	3	学校は、ICT機器(タブレットや電子黒板:大型モニター等)を積極的に活用している。	96.8%	0.5%	96.3%
	4	お子さんは、進んで読書をしている。	59.3%	9.6%	49.7%
	5	お子さんは、家庭学習(宿題を含む)をがんばっている。	85.0%	4.3%	80.7%
豊かな心	6	お子さんは、学校や地域、家庭で元気にあいさつをしている。	70.3%	0.3%	69.9%
	7	学校は、お子さんの理解に努め、寄り添った指導をしている。	93.3%	11.9%	81.4%
	8	学校は、道徳の授業や学習活動、生活指導等を通して、いじめのない学校・学級づくりに努めている。	92.0%	10.4%	81.6%
	9	教職員は、家庭への連絡をしてくれて、相談しやすい。	88.5%	7.8%	80.7%
健康	10	お子さんは「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣が身に付いている。	88.8%	4.1%	84.6%
特色	11	学校は、9年間の見通しをもち、小中学校のつながりを意識した教育活動に努めている。	81.0%	4.5%	76.5%
	12	学校は、「つくばスタイル科(総合・生活)」や教科等、行事を通して、社会に出て活用できる力を育てている。	85.8%	6.0%	79.7%
	13	学校は、体験活動、外部講師を招いた授業、校外学習など、多様な学習活動を取り入れている。	88.3%	3.2%	85.1%
安安心心	14	お子さんは元気に登校し、学校の生活を楽しく過ごしている。	96.5%	3.5%	93.0%
	15	学校には安心できる居場所がある。	94.0%	6.1%	87.9%
	16	学校は、日常的、定期的に交通安全、防犯・防災に関する指導や訓練を実施している。	94.5%	5.7%	88.8%
	17	学校は、教育目標や育てたい子供の姿を明確に示している。	88.8%	10.9%	77.9%
	18	学校は、学校だよりやHP、スクリレ等を通して、学校の取組をよく発信している。	98.3%	1.7%	96.5%
	19	学校は、教育活動や学校運営などに関して、保護者や地域と連携・協力した教育活動に取り組んでいる。	91.5%	6.9%	84.6%
	20	お子さんは地域や社会をよくするために、「自分自身に何ができるか」を考えたり、話したりすることがある。	51.8%	3.5%	48.3%

全体として、肯定的な回答が80%を超える項目が多く、特に1「授業」、3「ICT」、7「児童理解」、8「いじめ防止」、14「元気に楽しく」、15「居場所」、16「安全指導」、18「情報発信」、19「連携」は90%を超えています。また、そのまま比較はできませんが、昨年度の結果(12月)と比較すると全項目で増加しており、学校として大変ありがたく、教職員としても今後の教育活動の励みになります。ただし、学校教育目標はご存じのように「一人残らず幸せになれる学校」ですので、この目標に近づけるよう、課題や至らぬ点は多々ございますので、今後も努力してまいります。

また、4「読書」、6「挨拶」、20「社会貢献」については昨年度同様低い値です。4は児童の結果(74.3%)もやや低いのですが、保護者の結果より15%高くなっています。6については、児童の結果(87.1%)は比較的高いのですが、保護者と児童で質問内容がやや異なっていること(児童への質問「自分から元気に挨拶をしている」)や、双方の認識の違いなども影響していると考えられます。朝の挨拶の様子を見る限り、十分でない状況もあり、今後改善を図っていければと思います。20は社会とのつながりを活かした探究的な活動が必要となってきます。そのためには、つくばスタイル科を中心とした授業内容・方法等を見直し、改善することが必要になると考えています。

アンケートの実施にあたり、ご協力ありがとうございました。このアンケートは、保護者の皆様が学校づくりについて考えていただく機会にもなってほしいと思っています。そして、さらに教職員と保護者だけでなく、地域の方も含めてチームとなり、学校づくりを進める材料になればと思います。